

**食品安全委員会 in 群馬県 食品に関するリスクコミュニケーション
～地域のオピニオンリーダーとの意見交換会（私たちの食生活と食品健康影響評価）～**

日 時：平成25年10月15日（火）13：30～15：30
場 所：群馬県庁7階審議会室
主 催：食品安全委員会・群馬県
参 加 者：食品安全委員会 山添 康委員 食品安全委員会事務局 植木 隆情報・勧告広報課長
群馬県健康福祉部食品安全局 大澤 一之局長（群馬県食品安全県民会議座長兼）
群馬県食品安全県民会議委員（大澤局長他16名）

プログラム：

- ◇話題提供 脂肪の摂取と食品健康影響評価～トランス脂肪酸の食品健康影響評価を題材にして～
- ◇意見交換

概 要：

【トランス脂肪酸の摂取量を検査できないか】

《質問》自分がどのくらいのトランス脂肪酸を摂取したのか気になる。血糖値を測る血液検査のように、トランス脂肪酸の摂取量を検査で調べることはできないか。

《山添委員より》 食品安全委員会が研究委託事業で行っている心疾患などの患者を対象にした臨床研究の中で、血中のエライジン酸との相関関係について報告があったが、大規模な研究ではなく、いまのところトランス脂肪酸の摂取量の確実なマーカーはない。

【油脂の摂取の総量と内容の問題】

○ 日本人の肥満の増加の原因は、総エネルギー量の増加よりも総エネルギー比に占める脂質の割合が高いためだと言われている。私たちが健康に生きていくためには、たんぱく質、脂質、炭水化物の構成比が重要で、総エネルギー比に占める脂肪の摂取量は、大人の場合、25～30%が理想とされている。

○脂質のうち、魚の油に含まれるDHA、植物油のリノール酸など、必須脂肪酸は身体の外から摂取しなければならない。魚油の摂取が心疾患患者の心疾患の再発防止に効果があるという実験結果もある。不飽和脂肪酸のタイプなどを考えてバランス良く摂取できるとよいのではないか。

○トランス脂肪酸含有率低減へ業界は対応を進めているが、トランス脂肪酸を平均以上摂取量している方がいたり、古い油にもトランス脂肪酸が含まれるなど、家庭での食生活の積み重ねが重要。

【トランス脂肪酸の表示について】

○ 通常の食生活においてトランス脂肪酸は過剰摂取になっておらず、健康への影響は小さい。トランス脂肪酸の表示をする意味があるのか疑問。消費者に知ってもらうことは悪いことではないが、いろいろな要素があるので、数値が表示されると過剰に反応して消費者はゼロを求めてしまうのではないか。食品表示における数字だけが一人歩きしないかと心配。

○ マスコミの立場からは可能な限り表示をした方が良いと思う。消費者が分からないとしても、専門家同士、業界内相互のチェックができ、正当な企業努力を促進することになる。表示の内容は、厳しい指導が必要。

【リスクコミュニケーションの重要性】

○ トランス脂肪酸は、2005年頃、「食べるプラスチック」、「マーガリンは食べると危ない」等トランス脂肪酸は怖いものというイメージが広まった。その後、食品安全委員会のリスク評価で、通常の食生活においてトランス脂肪酸は過剰摂取になっておらず、健康への影響は小さいとの結果がまとめられた。しかし我々は一度悪いイメージを持つと、なかなかそれを払拭することができない。トランス脂肪酸の話題が報道された時に、消費者が報道の内容に踊らされている様子を見て、情報は大事だと感じた。自分は「マーガリンは食べてはいけない」という感覚を持っていたが、今日の講演を聞いて、そのイメージは払拭された。

○私たちは、それまで知らなかった情報を聞くと、「それを摂取すると自分たちは病気になる」と考えてゼロリスクを求めてしまう。問題のバックグラウンドについても、時間をかけながら伝えることが必要。消費者の不安

を安心に変えるためには、科学的なデータを基にして、消費者に安全性を時間をかけて説明していくコミュニケーションが重要。先日、群馬大学等が「肺線維症の原因は脂肪酸が関係していることを発見した」というニュースが伝えられた。これだけの情報だと、脂肪酸は悪いものだというイメージになりかねない（実際は、「肺胞上皮の脂肪酸組成のバランスが肺線維症の発症に強く関与していることが示唆された」という研究結果。）。話を断片的に聞くと、何か危ないものがあるような間違った認識を持ってしまう。一般の消費者に分かりやすい説明で正しい情報を伝えるよう伝え手としても注意していかなければならない。

○ 全ての食品にはリスクがあるが、リスクにどう立ち向かって行くかが重要。

【安全と安心、風評被害】

○ 食品の安全と安心の違いについてのギャップを埋めていくためには、リスクコミュニケーションが大事であり、分かりやすく説明することと、安全性のデータが必要。消費者や学生が正しく理解するためには、かみ砕いた話が必要であり、なるべく新しい情報を提供している。

○ 生産者が安全なものを作るために最善の努力をすることを理解してほしい。生産者にとって風評被害は命取りになる。報道機関による正しい情報提供が重要。風評被害を縮小するためには、情報を提供する側、伝える側、受ける側の3者の理解が必要。

○ 行政の立場からも、安全と安心の意味は違う。行政を信じてもらうことも安心だと思う。